宮崎県

平成15年度発足

Miyazaki

食の機能を中心としたがん予防基盤技術創出

事業総括
中島　勝美　宮崎商工会議所会頭
雲海酒造(株)代表取締役社長

研究統括
河南　洋　九州女子大学教授(前 宮崎大学医学部教授)

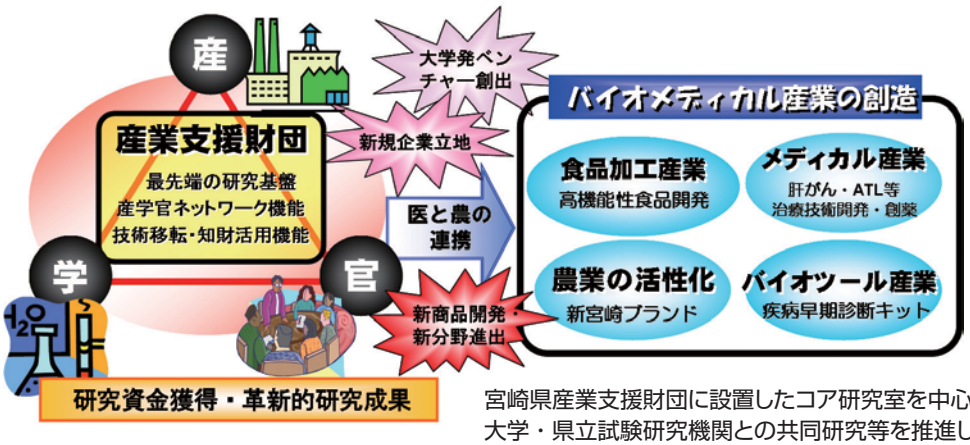
新技術エージェント
今井　常世　(株)キイテック代表取締役社長
三重野　文明　文殊ブレインズ代表

中核機関
(財)宮崎県産業支援財団

行政担当部署
宮崎県商工観光労働部工業支援課

コア研究室
宮崎県工業技術センター内

地域COEの構築への取り組み



宮崎県産業支援財団に設置したコア研究室を中心として、企業・大学・県立試験研究機関との共同研究等を推進し、研究成果の事業化を図る。

新技術・新産業創出の取り組み

1. 機能性食品開発

高い生理機能を有するとして見出したラビットアイブルーベリー葉などの農作物について、栽培を普及させると共に、高付加価値な機能性食品開発を促進する。これにより、農業および食品加工産業の活性化を図る。

葉が一面に茂ったブルーベリー葉収穫用圃場

2. 発症リスク・早期診断法開発

コア研究室に蓄積されたゲノム・プロテオーム解析技術を活用することで疾病関連マーカーの探索を行うと共に、企業との共同研究により診断薬開発を目指す。特に、肝疾患、ATL の診断薬開発を推進し、県内にバイオメディカル分野の新産業を創出する。

イムノクロマト法を用いた簡易診断キット

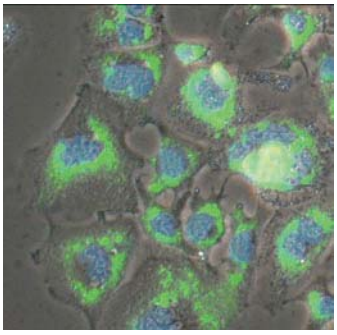
3. ハイスループット食品機能性評価システム開発

基礎技術確立に至った本システムについて、解析精度の向上を図ると共に、評価項目を追加することにより、市場ニーズの高いシステムへと発展させる。迅速かつ網羅的な解析が可能であることから、創薬のためのスクリーニングシステムや農作物の迅速な生理機能評価法としての応用が期待される。

マーカー発現量を情報科学的手法により解析し、生理機能を推定

4. エマルションキャリア開発

宮崎県工業技術センターが保有する膜乳化技術を活用し、企業等との共同研究により、化粧品、医薬品、動物薬、生化学系実験用試薬などのバイオメディカル分野に関連する応用研究を推進し、製品開発を目指す。



ナノサイズのエマルションは細胞内導入能がある